

年が明けた元旦か、元旦が無理なら元日の間に富士山を見たいと思っていましたが、今年は1月2日になってしまいました。場所は去年の「初富士」と同じ、関越自動車道の「高坂 PA」でした。高坂 PA は、上り線の駐車場よりも、下り線の駐車場のほうが段丘の上に位置し、遠くまでよく見えるのです。

この位置から見る富士山は、山頂に近い場所しか見えません。関東山地の連嶺や、その前衛の丘陵で裾野は完全に隠されてしまうからです。だいたい 3200m 以上から山頂火口壁までが見えているようです。そのかわりに、「吉田大沢」がほぼ正面に見えます。富士山麓では、「忍野（おしの）」からの見え方と同じです。吉田大沢というのは、富士山山頂から裾野に向かってのびる「浸食谷（放射谷）」の一つで、西側の「大沢」に次ぐ規模の谷です。

富士山は噴火活動を休止して数百年経っているので、短期的に見れば堆積よりも浸食のほうが優勢です。このまま噴火による溶岩や砕屑物の堆積がなければ、恐らく 100 年以内に「西側の大沢」、次に「吉田大沢」の浸食が、山頂火口壁を決壊させることとなります。そうすると現在は完全な凹地（おうち）になっている富士山の火口は、浸食谷とつながって「火口瀬」となる運命です。岩手山や日光男体山のような姿に近くなるわけです。そうならないように噴火してほしい・・・とも思うのですが、噴火による被害を考えると、なかなか複雑な気持ちにもなります。

(2025年1月2日／関越自動車道高坂 PA)

